

令和7年度東京都立大山高等学校 学校経営報告（全日制課程）

I 今年度の取組と自己評価**1 学習指導**

- ① 授業規律の確立を図り、予習プリント、宿題・小テストを課して、学習習慣の確立や基礎・基本の定着を目指した。プリント教材やICT機器を活用した授業をほとんどの教員がおこなうようになり、学習意欲を向上させ、学力向上を図る生徒も多くいた。
- ② 生徒の学力差が著しいが学力低位者には、定期考査前に特別な補習や課題を用意し、最低限の基礎力を身に付けさせるようにした。
- ③ 学力向上研究校として、1年の成績不振者（国・数・英）に対し校内寺子屋事業を実施している。7限に国語基礎演習・数学基礎演習・英語基礎演習という学校設定科目として教員が主に担当し、授業内容と関連させた結果、受講者の多くが定期考査での得点を向上させ、進級につなげる生徒が増え、中退者防止の一役を担えた。今年度は通年で履修して単位を修得した生徒が2名出た（国語基礎演習）。不振者だけの講座のため、個別の対応が必要な者がほとんどなので、マンパワーとしての補助員の数が不足している。
- ④ 学校評価アンケートの「習熟度別授業や少人数授業など、生徒一人一人に対応した丁寧な指導を行っているか」の項目で、肯定的な回答は生徒では1年生が83.5%、2年生が86.9%、3年生が84.1%（昨年度全体83.3%）、教員が93.1%（昨年度93.3%）だった。1学年で17単位相当、2学年で9単位相当開講している習熟度別授業、少人数授業は、生徒の集中度を高めるのに効果的で、基礎・基本の定着に成果を上げることができた。
- ⑤ 基礎力診断テストの振り返りを実施し、各教科において授業改善に取り組んだ。
- ⑥ 教科会で学校評価や生徒による授業評価の結果を的確にフィードバックし、定期考査などに反映させるように取り組んだ。
- ⑦ 大学進学への意欲が高い生徒に対し、1・2年対象の発展演習（英数国）を7限に授業として実施し、1年生は国語2名、数学2名、英語3名、2年生は国語4名、数学4名、英語4名が単位を修得し、学力向上に成果を上げた。

2 生活指導

- ① 自転車事故ゼロを目指し、毎日の校門指導など、全校態勢で取り組んでいる。しかし、ヘルメット着用率は時間が経つにつれて低下し、依然として自転車通学のマナーが改善されていないという地域からの声が上がっている。令和8年4月施行の改正道路交通法（青切符制度の導入）をきっかけに、指導を徹底することが課題である。
- ② 服装、頭髪、装身具等の身だしなみ指導について、生徒部のぶれることのない基準のもと、全教員で取り組むことができ、指導が必要な生徒割合が減少した。化粧や冬季の防寒着指導も徐々に定着してきた。スマホ・携帯のロッカー管理指導はほぼ定着した。
- ③ 問題行動は昨年度と比較して、指導件数が減少した。指導内容はスマホ所持や身だしなみ指導等が累積したことやいたずらのような安易な動機のものが多い。スマートフォンの不適切な使用についての指導も引きつづき徹底していく必要がある。

3 進路指導

- ① 全学年に対しては、進路部が中心となり組織的、計画的な指導が継続された。進路決定率87.2%（昨年89.4%）であった。
- ② 令和7年度から指定を受けた「スキルアップ推進校」として、希望者が「ジョブ・キャンプ」、「英検講座」、「デジタルスキル講座」等に参加して、個々の力を伸ばした。「英検講座」の実績としては、1学期に2年生2名が英検2級に合格した。来年度は、スキルアップ推進校を対象としたTOKYO GLOBAL GATEWAYの英語体験に新1年生が学年全体で参加する。
- ③ 7月に3年生を対象に、3月には1、2年生を対象に「キャリア教育講演会」を実施、進学に関する興味、理

解、関心を高めた。また、3月に「卒業生講演会」を実施、生徒の進路意識の向上につなげた。

- ④ 大学・専門学校への進学に向けて、一昨年度から実施している「バディ制度」を定着させ、生徒と教員が1対1で希望進路の実現を目指して取り組んだ。

4 健康安全指導

- ① 校長、副校長、特別支援教育コーディネーター、自立支援担当、各学年、各分掌の代表、SCをメンバーとする、特別な支援を必要とする生徒に組織的に対応するための教育相談委員会を年間9回実施した。
- ② 今年度はSC3名体制による相談活動を実施し、生徒の悩みや相談に寄り添いながら、高校生活が続けられるよう、教員間で共通認識を持って取り組んだ。SCやYSW、特別巡回心理士との連携を図るとともに、生徒対象の精神科医講演会、教員対象の事例検討会や研修会を実施できた。
- ③ 感染症対策の一環として教室内のごみ箱を撤去し、日ごろからの学校美化を進めた。

5 学校行事・部活動

- ① 体育祭・文化祭ともに、生徒の自発的な取り組みと教員の支援により、クオリティの高い行事が実施できた。特に、文化祭は数年ぶりに全面公開で実施し、中学生や生徒の家族・友人等多数の来客を得て、安全で活気のある行事を実施できた。
- ② 部活動加入率は64.8%（昨年度57.0%）であった。週休日に積極的に活動する部活動が増え、対外競技会・大会に参加する部も増えている。少人数であっても部活動を活性化させる取り組みを続けていく。
- ③ 3年生と1年生による「合唱祭」を外部施設を利用して実施した。特に3年生は3年連続での開催となり、生徒の前向きに取り組む姿勢と発揮した技能の高さは称賛に値する内容であった。

6 地域交流等

- ① 学校運営連絡協議会の協議委員として、地元茂呂町会会長にご参加いただいている。地域代表としてご助言をいただいたほか、学校アンケートにご協力いただいている。
- ② 「人間と社会」において、上板橋駅周辺や城北中央公園内の清掃活動に取り組んだ。
- ③ 生徒会主催で、地域の保育園児を招いて、「地域交流クリスマス会」を実施した。
- ④ ボランティア部が地域の祭りや催事に参加、協力した。

7 学校経営・組織体制

- ① 毎週の企画調整会議の開催により、各分掌と学年、経営企画室が共通理解のもとで学校運営を行うことができた。
- ② 年間3回の服務事故防止研修を実施し、体罰や不適切な指導の防止に努めた。服務事故の未然防止について教員の意識を維持、向上させた。一部、成績処理に課題があったので引き続き点検体制を確認して事故防止に努める。
- ③ 授業公開を年1回、年4回の学校説明会・個別相談会、夏季休業中の学校見学会を実施した。広報活動は、外部における説明会参加を積極的に行ったが、募集状況は大変苦戦した。ホームページのより有効な活用が課題である。

Ⅱ 次年度以降の課題と対応策

1 学習指導

- ① 教科・科目に対する生徒の興味・関心を持続させ、自ら進んで学ぶ姿勢を育てるためにICT機器の有効な活用と生徒の端末活用を活発化させる必要がある。基礎的・基本的学習内容の確実な理解・習得につなげるため、予習プリント、宿題、小テストなどを用意し、学習習慣の確立を目指す。
- ② 模試結果分析を各教科で実施し、生徒の学習の課題を明確化して授業改善につなげる。
- ③ 学力を正確に把握し、少し速く、少し難しく感じる授業を推進し、一人ひとりの学力の維持・向上を目指す。
- ④ 東京都教育委員会学力向上研究校としての校内寺子屋事業は今年度をもって廃止となるが、「学力向上推進校」に手を挙げ、7限に実施している基礎講座・発展講座を継続して実施する。通常授業との連携を図った計画的な指導により、学力の低い生徒の基礎・基本の定着と学力向上を目指すとともに、大学進学を目指す成績上位者向けの選択科目として引き続き、国語・数学・英語で実施する。
- ⑤ 教員の授業力向上のために年2回実施している相互授業参観を継続するとともに、校内研修の開催や東京都教職

員研修センター等の実施する各種研修への参加を通して、学校全体として教育力の一層の向上を図っていく。

2 生活指導

- ① 交通安全教育を全校態勢で実施し、「安心・安全な学校」目指し、自転車事故ゼロ・自転車走行マナー遵守を目指して取り組む。
- ② 頭髮指導等の身だしなみ指導は、本校での生活指導上の約束事を生徒が十分に理解できるようにする指導を継続するとともに、生徒の人権に配慮しながら実施する。
- ③ 朝の立ち番指導や授業中の巡回指導を全校態勢で継続する。遅刻防止指導等、家庭との綿密な連携による基本的生活習慣の確立を図っていく。
- ④ スマートフォン、SNSの適切な利用についての指導を計画的に進める。

3 進路指導

- ① 今年度まで実施してきた「バディ制度」を継続して実施する。担任と「バディ担当」との役割分担を明確にして、進路部主導で実施することとする。
- ② 来年度も、夏季休業中に「進路別講習」「夏期講習」、3月に「卒業生講演会」を、適切な時期に「大学等模擬講義」を進路部を中心に実施する。
- ③ キャリア教育は、二者や三者面談で個別の事情を把握しながら取り組んでいく。キャリア教育講演会は、生徒に好評で有益であるので、引き続き外部団体と連携したものを実施する。
- ④ 8月末に、推薦制度による進学希望者対象（生徒・保護者）の説明会を実施する。

4 健康安全指導

- ① 学校保健計画に基づき年2回の学校保健委員会を中心に、計画的・効率的な学校保健の運営を行い、生徒の健康と安全を確保していく。
- ② 教育相談委員会を定期開催（年間10回）し、SCやYSWと教員との連携を強め、生徒一人ひとりの事例に適切に対応できる体制としていく。
- ③ 「都立学校における専門医派遣事業」による研修会を婦人科と精神科で実施し、外部の専門医を活用することで、専門的立場から効果的な支援について助言をいただく。

5 学校行事・部活動

- ① 生徒全員が体育祭や文化祭の企画、立案、運営に主体的に携われるような行事としていく。
- ② 1年での部活動全入等の方策により部活動加入率を高める。部活動指導員や外部指導員の活用やオリエンテーション等の工夫により、一人でも多くの生徒を部活動に参加させ、部活動の活性化を図る。
- ⑤ 1，2年生による合唱祭を生徒部主体で実施する。

6 地域交流等

- ① 学校運営連絡協議会などを通じて地域との連携と協力体制の充実を図る。学校見学会、学校説明会、授業公開、学校行事の公開、教科「人間と社会」の実践などを通して、中学校、保護者、地域、NPO等との交流を促進する。
- ② 生徒会活動、部活動を通じて、地域の保育園や小・中学生との交流を図る。

7 学校経営・組織体制

- ① 年間3回の服務事故防止研修や、朝の打ち合わせ会、職員会議等を通じて、服務事故の未然防止を徹底する。
- ② 教務部を中心に、効率の良い広報活動を全教員が取り組み、多くの中学生が来校し、応募につながるようにする。また、部活動の実績や学習活動・学校行事について積極的に発信していく。本校のホームページの更新回数を劇的に増やし、情報発信や動画配信、学校説明などオンラインを活用した募集対策をより一層促進していく。
- ③ 学級担任と生徒や保護者との面談を年2回以上計画的に実施するとともに、日々のHR活動や授業を通して生徒の変異に素早く気づき、適宜、生徒や保護者からの相談に応じられる態勢を作っていく。